

根室高速道路計画 野鳥誌掲載記事

<根室道路予定地でタンチョウ2年連続確認>

(No.639 2001年2月号 p.29)

<根室道路問題で北海道ブロックが決議を採択し要望書提出>

(No.634 2000年8月号 p.47)

<根室道路問題で要望書提出>

(No.632 2000年6月号 p.38)

<タンチョウを脅かす 根室道路計画 ～ずさんなアセスで生息地を直撃～>

(No.630 2000年4月号 p.38)

● <活動>

根室道路予定地でタンチョウ2年連続確認 (No.639 2001年2月号 p.29)

根室道路は、根室市内の根室インターから温根沼インターを結ぶわずか7kmの高速道路で、北海道開発局が計画しています。この計画に対するアセスでは、建設予定地でのタンチョウの生息は確認されず、影響は小さいとされていました。しかし、地元のニムオロ自然研究会（佐々木弘往会長）が1999年秋に行った調査では、タンチョウの生息が確認されました（本誌2000年4月号P38参照）。

今回の確認は2000年秋のニムオロ自然研究会の調査によるもので、建設予定地でタンチョウの生息確認は2年連続になります。特に今回は、これまで確認されていなかった根室インター寄りの区間もタンチョウが利用していることが分かり、これで建設予定地のほとんどをタンチョウが利用していることになりました。この調査結果をもとに、今後も地元根室支部やニムオロ自然研究会と連携して対応していく予定です。

（自然保護センター）

● <活動>

根室道路問題で北海道ブロックが決議を採択し要望書提出

(No.634 2000年8月号 p47)

タンチョウやクマガラへの影響が懸念される北海道根室市の高速道路建設計画（本紙 4、6月号参照）で、本会北海道ブロック支部連絡協議会（正富宏之会長）は、5月27日に北海道滝川市で開催された同協議会総会の席上で、保護のため見直しを求める決議を行いました。またこの決議を受けて、29日には事業者である北海道開発局に要望書を提出しました。

同協議会総会は、5月27～28日に滝川支部（越後弘支部長）の主管により滝川市内で開催され、道内11支部と関係団体などから28名が出席しました。本会事務局からは自然保護センター小林豊副所長とウトナイ湖サンクチュアリ所長の葉山政治が参加しました。採択された決議は、根室道路計画で脅かされている根室市温根沼周辺の自然環境を守ることを改めて決意するとともに、関係方面に対し根室道路の路線変更や環境影響評価の再実施を強く求めていくというものです。

要望書の提出は、5月29日に滝川支部越後弘支部長、根室支部細川憲了支部長、札幌支部猿子正彦副支部長と、事務局自然保護センター小林副所長の4名が札幌市にある北海総開発局を訪ねて行いました。要望書はブロック総会決議の主旨を踏まえ、計画の見直しなどを求める内容です。この根室道路問題には、今後も地元支部やブロックと協力して取り組んでいきます。（自然保護センター）

● <活動>

根室道路問題で要望書提出 (No.632 2000年 6月号 p.38)

タンチョウやクマガラへの影響が懸念される北海道根室市の高速道路建設計画(本誌 4月号 p.38 参照)で、本会は3月29日に、事業者の北海道開発局および関係省庁に要望書を提出しました。

要望内容は、次の2点です。

1.計画路線の変更

2.アセスメントの再実施

1の計画路線の変更は、ニムオロ自然研究会(佐々木弘佳代表)の調査により、計画路線上にタンチョウの採餌地とねぐらが確認されたためです。またアセスの再実施は、現在計画されているインターより先の区域はアセスが行われていないのに、インターの位置が決められているためです。

北海道開発局長宛の要望書は、鶴居サンクチュアリの原田修チーフレンジャーと本会根室支部の細川憲了支部長、高田勝幹事が、釧路市の北海道開発局釧路開発建設部を訪ねて手渡しました。また同時に、ニムオロ自然研究会も、高田令子幹事が局長宛の要望書を提出しました。関係省庁の建設大臣、北海道開発庁長官、環境庁長官へは、自然保護センターの小林豊副所長がそれぞれ訪問し提出しました。

釧路での提出では、細川支部長と高田幹事が中心になって問題点の説明を行い、特に細川支部長からは、「道路計画全体を見越した環境調査が必要である」との強い指摘が行われました。(自然保護センター)

● <活動>

タンチョウを脅かす根室道路計画 ～ずさんなアセスで生息地を直撃～
(No.630 2000年4月号 p38)

全長7kmの高速道路

計画の事業名は「一般国道44号線 根室道路（根室市）」といい、根室市内の根室インターから温根沼インターを結ぶわずか7kmの高速道路です（地図参照）。すでにアセス（環境影響評価）や路線選定が終わり、早ければこの秋にも着工と言われています。事業者は北海道開発局です。

また、現在計画が進められているのはこの7km区間だけですが、将来は釧路まで延長され、北海道横断自動車道と接続して根室と札幌が高速道路で結ばれるという構想があります。

タンチョウの生息地を直撃

この7km区間について事業者が行ったアセスでは、“計画路線上ではタンチョウの採餌行動は観察されておらず、営巣も計画路線から離れているため影響は小さい”とされています。

しかし昨年、地元のニムオロ自然研究会（佐々木弘往会長）が行った調査では、計画路線上でもタンチョウが採餌しており、特に10～12月にかけては、採餌の中心域とねぐらがちょうど計画路線にあたることがわかりました。さらに営巣地も計画路線から500m程度のところにあることもわかりました。

このため計画どおりに着工されると、タンチョウへの影響は確実です。また、“採餌行動が確認されない”としたアセスはずさんと言う以外にありません。さらに計画路線上の森では、クマガラの食痕も多数確認されており、シマフクロウが利用している可能性も指摘されています。

現地を訪れ問題点を指摘

本会根室支部（細川憲了支部長）やニムオロ自然研究会など根室地域の自然保護に関わる5団体は、昨年6月に連名で環境庁に対して路線変更の要望を行いました。

去る1月26日には、本会自然保護センターの小林豊副所長が根室を訪れ、根室支部と今後の対応を協議するとともに、27日にはニムオロ自然研究会の青木則幸氏の案内で路線予定地を視察しました。また、28日には釧路支部（林田恒夫支部長）とも協議を行いました。これらを受けて、1月28日に、小林と鶴居サンクチュアリの原田修チーフレンジャーの2名が、北海道開発局釧路開発建設部（釧路市）を訪ね、このまま計画が進められればタン

チョウなどに影響が出ることを指摘、路線変更などの対応を求めました。

路線延長でさらに影響が

現在計画が進められている7km 区間より先については、いまのところ構想だけで計画は決まっておらず、アセスも行われていません。しかし、温根沼インターのすぐ先には、タンチョウが7つがい生息し、オオワシが多いときは100羽以上集まる温根沼が広がっています。またこの温根沼に隣接して本会の持田野鳥保護区東梅もあり、シマフタロウが生息する森もあります。インターができれば、当然それにつながるように路線が延長されますから、インターより先のアセスを行わないままにインターの位置が決められているのは非常に問題があります。

さらに、その先、釧路までの間では、もっと多数のタンチョウ生息地とシマフクロウやクマガラの生息地が広がっています。そのため、このまま路線が延長された場合、コースによっては極めて重大な影響が出ることは確実です。

この問題にご意見を

このように貴重な自然環境への影響が懸念される問題のため、今後も根室支部や釧路支部、地元関係団体などと連携して保全運動を進める予定です。

また、会員の皆さまのご支援もどうぞお願いいたします。北海道開発局釧路開発建設部では、インターネットで意見受付を行っておりますので、ぜひこの道路計画についてのご意見をお送りください。（小林豊／自然保護センター）

開発局釧路開発建設部 <http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/index.html>